

「珠洲の子どもたちがおもいっきり遊べる」プロジェクト実施企画書

(1) 実施主旨

能登半島沖地震が発生して半年が過ぎようとしています。様々な復興支援が進む中、継続した支援、何よりも「心のケア」を長期的に捉え、被災した子ども一人ひとりに「安心」「安全」な生活環境を整え、寄り添っていく支援が必須となっています。現実と向き合い、明日への希望を自分自身の手の中に入れる為には「安心・安定した人間関係の中で楽しさを実感する」ことが、子どもたちの今とこれからの生活に求められていると考えます。こどもの権利条約における「4つの権利（生きる・育つ・参加する・守られる）」を基盤に据え、長期休暇に様々な活動を体験する事を通じて「子どもを中心とした生活」の安定化を図りたいと願っています。

「珠洲の子どもたちがおもいっきり遊べる」プロジェクトを立ち上げ、子ども一人ひとりの発達に寄り添っていきます。

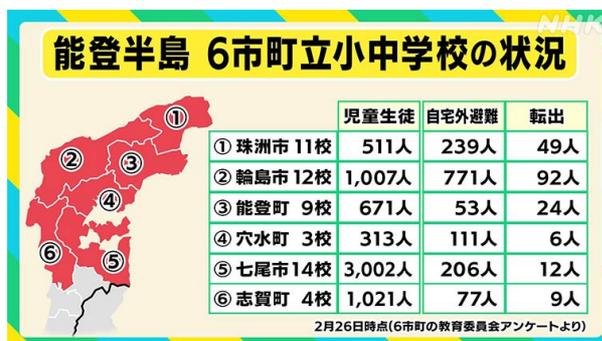
(2) 現状と課題

何の前触れもなく起こった災害は、一瞬にして私たちの日常生活を奪い、不安に陥れます。大人であっても様々な不安を抱える中、**子どもたちが抱える不安の大きさは例えようがありません**。口に出して「助けて」と表現せず、普段通りに過ごしているように見えたとしても、様々な助けを求めていると捉えることが重要です。被災した**子どもたち**に必要なケアについては、以下の4点が挙げられています。

1. 「安心感」を与える
2. 「日常」を取り戻すことを助ける
3. 被災地の映像を繰り返し見せない
4. 子どもは自ら回復する力があることを理解し、見守る

<https://www.unicef.or.jp/kokoro/>より引用

2024年1月に発生した能登半島沖地震においての**子どもたち**の現状は以下の通りとなっています。再開した学校では、全員の出席が叶わず、オンライン授業などで参加を余儀なくされていたり、断水等により給食が再開できず、炊き出して賄われているところも報告されています。右記一覧の自宅外避難は、「避難所や親戚の家などから学校に通う」、「学校に籍を残しながら近くの別の学



校に通う」、または「2次避難先の学校に通っている」状況です。転出は、「別の場所で他の学校に在籍している」ことです。輪島市では、1007人の児童生徒のうち771人、半分以上が家からは通えていないことになります。

京都大学防災研究所の矢守克也教授は、この状況を次のように見えています。「環境が激変していて、ストレスがたまってしまう。思うように寝られない、勉強に集中できない、食欲もなくなってしまうなど、つらい状況があると思える数字です。残っている子たちもつらいし、他の地域に一時的に移り住んでいる子たちもつらいと思います」被災地で学校生活をおくる児童生徒への支援が、喫緊の課題となっています。

([能登半島地震 被災地の子どもたち - 記事 - 明日をまもるナビ - NHK](#)より引用)

(3) 大学生（保育士養成ならびに教員養成校）への導入

震災発生時は他府県からの支援を規制されていた経緯もあり、様子を見ていました。発生から数ヶ月が過ぎ、多くの支援者が入っている状況から、何らかの支援を実施できるタイミングになってきたと感じています。ここで、主に保育士養成ならびに教員養成校の大学生と一緒に、被災した児童生徒への支援ができればと思います

(4) 具体的な活動（別紙実施要項を参照）

日 時：令和6年8月18日（日）～20日（火）

行き先：兵庫県川西市、西宮市、神戸市

対 象：珠洲市内の小学生（40名程度）親子での参加も可能

目 的：市内の小学生を対象に、様々な体験を通じて心のケアを図る一端としたい。また、夏の思い出作りを通して、2学期を迎える気持ちを整える。

内 容：キャンプ場での宿泊

アクティビティタイム：アスレチックもしくはキッズニア など

アクティビティタイムについては変更の可能性あり

参加費：無料（寄付・補助金・クラウドファンディング等で対応）

(5) 実施団体

「[珠洲の子どもたちがおもいきり遊べる](#)」プロジェクト実行委員会

（一社）こども女性ネット東海、兵庫大学、東大阪大学、関西女子短期大学
武庫川女子大学大学院（臨床教育学専攻OB）有志で構成。

取りまとめは事務担当が中心になって行う。

(6) 問い合わせ先（事務担当）

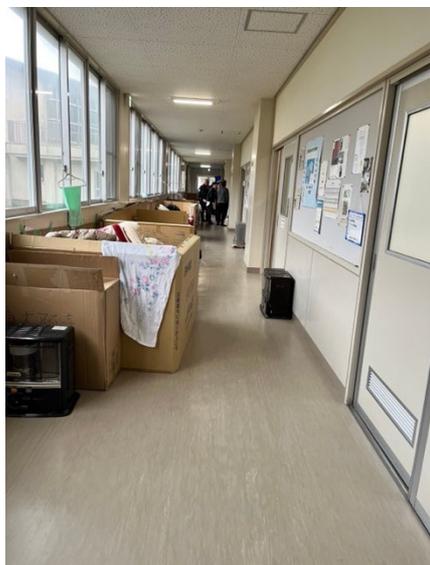
問い合わせ先（事務担当）

田邊 実香（関西女子短期大学保育学科 講師） tanabe@tamateyama.ac.jp

田邊 哲雄（兵庫大学教育学部教育学科 教授） tetsuota@hyogo-dai.ac.jp

(7) 参考資料

① 珠洲市立蛸島小学校の様子（2024年2月の状況）



体育館だけでは場所が不足し、教室前にも生活スペースが点在している。児童の中には、校内の避難所で生活をしながら登校している状況もある。報道やSNSだけでは見えてこない現状と課題がある



グラウンドには仮設住宅が建設されており、児童の活動場所が制限されている。生活発表会を避難されている方にも観てもらっている。投稿できない生徒はオンラインで参加している。
被災者が被災者を支援するフェーズに移行している。
* 中学校は金沢市内に疎開しており、卒業式の前に帰宅（自宅もしくは避難所）している。
** 一人になりたい、一人になる場所が圧倒的に不足している状態



「珠洲の子どもたちがおもいっきり遊べる」プロジェクト募集要項



珠洲の子ども達と、関西の大学生が一緒になって、夏休みの思い出作りを計画しています。ぜひお越しください！！関西のソウルフードが待っています

日時：令和6年8月18日（日）～20日（火）

行き先：兵庫県川西市、西宮市、神戸市

対象：珠洲市内の小学生（40名程度）親子での参加も可能

目的：市内の小学生を対象に、様々な体験を通じて心のケアを図る
また、夏の思い出作りを通して、2学期を迎える気持ちを整える

内容：キャンプ場での宿泊

アクティビティタイム：アスレチックもしくはキッズニア など

アクティビティタイムについては変更の可能性あり

参加費：無料

宿泊先：日本パプテスト同盟猪名川キャンプ場

〒666-0155 兵庫県川西市西畦野八幡尻52

（参考 web サイト <https://kizuna-ikuei.or.jp/topics/1082/>）

アクティビティタイム（どちらかを希望してもらいます）

①六甲山アスレチックパーク GREENIA

〒657-0101 兵庫県神戸市灘区六甲山町北六甲 4512-98

（参考 web サイト <https://www.rokkosan.com/greenia/>）

②キッズニア甲子園

〒663-8178 兵庫県西宮市甲子園八番町1-100 ららぽーと甲子園

（参考 web サイト <https://www.kidzania.jp/koshien/top>）

実施団体：「珠洲の子どもたちがおもいっきり遊べる」プロジェクト実行委員会
（（一社）こども女性ネット東海、兵庫大学、東大阪大学、関西女子短期大学
武庫川女子大学大学院（臨床教育学専攻 OB））

申し込み・問い合わせ先

田邊実香（関西女子短期大学）tanabe@tamateyama.ac.jp

送信先 田邊実香（関西女子短期大学） tanabe@tamateyama.ac.jp

「珠洲の子どもたちがおもいきり遊べる」プロジェクト 参加申込書

ふりがな 申込者氏名		性別	□男 □女
生年月日	年 月 日 (歳)		
学校名・学年	学校 () 年		
連絡先	住所 (〒)		
	電話番号		
	携帯番号		
	メールアドレス		
同行者	ふりがな 氏 名	生年月日 (歳)	申込者との 続柄
要望 連絡事項	(食事アレルギー、持病、既往症などがあればご記入ください)		

(保護者同意欄)

私は、参加申込者が「珠洲の子どもたちがおもいきり遊べる」プロジェクトに参加することに同意します。

(自筆署名)

こちらの備忘録として

先方の窓口

珠洲市教育委員会事務局

事務局長 岸田 和久 様

〒927-1295 石川県珠洲市上戸町北方1字6番地の2

0768-82-7826

kyouiku@city.suzu.ig.jp

珠洲市立蛸島小学校

校長 河元 智志

〒927-1204 石川県珠洲市蛸島町ワ部69番地

0768-82-0524 (090-6812-2851)

takojimasyou@city.suzu.ishikawa.jp